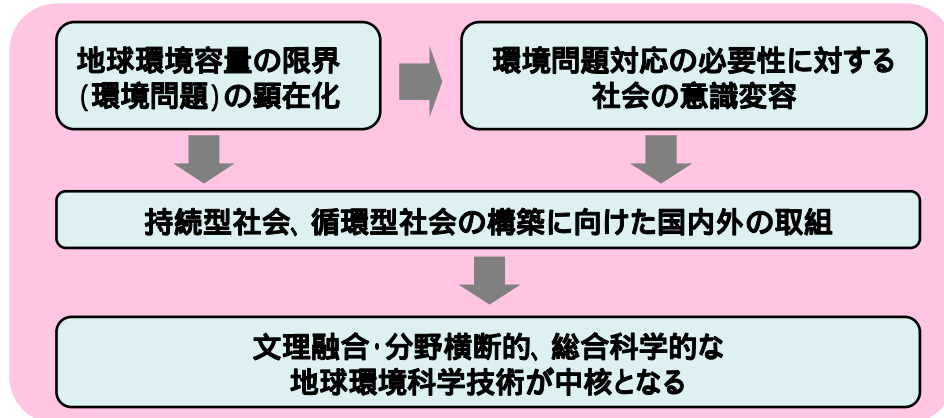




地球環境科学技術委員会 「地球環境科学技術に関する研究開発について ~第3期科学技術基本計画の策定に向けて~」

21世紀の世界における人類共通のテーマ、「持続可能性の維持と拡大」の実現に向けて、「持続型社会のための科学技術・学術」の中核として地球環境科学技術は重要である。

1. 環境問題が要請する「持続型社会のための科学技術」への変容



2. 地球環境科学技術の基本理念

「持続可能な社会の実現に向けた知恵」の具現として地球環境科学技術は、研究の理念、対象のとらえ方、研究の取り組み方において、以下の特徴。

- (1) 持続型社会のための科学技術
- (2) 自然と社会を含む統合システムとしての対象把握 - 分野横断的総合科学
- (3) 自立・自律分散型ネットワーク巨大科学技術
- (4) 目的とビジョン、シナリオを明確にした上での長期的・基礎的視点の必要性
- (5) 社会に働きかけ市民が参加する科学技術

3. 次期科学技術基本計画において考慮されるべき重要科学技術課題

地球環境科学技術分野として取り組むべき研究課題
(すべての課題は、縦横の視点を持ちながら実施することが肝要)

- 地球観測
地球環境変動予測とその影響予測研究
地球環境を保全するための対策技術研究
持続型社会構築研究等の政策研究
地球温暖化研究
地球規模水循環変動研究
生物多様性・生態系研究
自然共生型流域圏・都市再生技術研究
非持続型の消費・製造形態からの離脱による循環型社会システム設計
人の健康や生態系に対する化学物質リスク総合評価・管理技術研究
自然・人為災害による人命及び財産の損失軽減
環境分野の知的研究基盤の充実

4. 環境科学技術が要請する研究体制

「持続型社会のための科学技術」の中核として地球環境科学技術を推進
次期科学技術基本計画において以下のような推進体制の構築の考慮が重要

- (1) 我が国としての総合研究戦略の確立とロードマップの提案
- (2) 内外地域ネットワークによる研究推進体制強化
- (3) 研究成果等を社会に還元するシステムの構築
- (4) 観測、データ整備、資料保存などを確保するための継続的な基盤整備
- (5) 「持続型社会のための科学技術」に対応した評価システムの見直し
- (6) 大学における環境科学の重要性
- (7) 初等中等教育段階から社会人教育までの環境教育の重要性

